

# 民進・県民クラブ海外視察報告



日時 平成 28 年 4 月 11 日～15 日

視察先 香港 シンガポール

## 1 目的

本県は、「アジアとつながる」を県政の大きな柱の一つとして、新たなマーケット開拓と交流の促進、アジアをターゲットとした誘客戦略の強化などを推進している。昨年は10月に香港事務所、熊本香港定期路線の開通など着実にその成果が出てきている。また、シンガポールには本県の米を売り込むための工場も建設されている。

今回、香港直行便の活用を促進と合わせて、香港、シンガポールでの視察調査を行い、本県から海外展開に向けての新たな施策の可能性を探り今後の議員活動に資する。

2 期間 平成28年4月11日（月）～平成28年4月15日（金）

3 視察調査先（国名及び視察調査先等）

### 香港

（12日）

- 1 九龍水果市場
- 2 油麻地街市公設市場
- 3 JETRO香港事務所
- 4 日本政府観光局(JNTO)香港事務所
- 5 イオン香港

（14日）

- 6 香港航空局
- 7 峰寿司

### シンガポール

（13日）

- 1 岡田珈琲店
- 2 熊本県アジア事務所(クレアシンガポール)
- 3 JETROシンガポール事務所
- 4 クボタ日本産精米工場

4 参加者

団長 鎌田 聡  
団員 西 聖一 磯田 毅 濱田 大造 岩田 智子  
以上 5名

## 1.九龍水果市場

### 《目的》

世界の台所と言われる香港の果物、野菜の卸売り市場での熊本産の売れ行き調査や現地の方々の要望を聞く。



(一口サイズのさつまいもが人気)

### 《説明概要》

果物野菜の卸売り市場である九龍水果市場は約200軒の店が軒を連ねている。ここには日本からの輸入品がたくさん届いていた。今の人気商品は小さなさつまいもらしい。これは熊本からも出ている。またいちごやりんごも人気商品だということ。特に日本製のものが人気である。安全安心そして美味。そのため需要は増えている。

ある果物店の店主に熊本から来ていると伝えると、「くまもとのいちごは甘かったりそうでなかったりしたことがあった。甘いのがいい。」と言われた。難しいところだと思った。

日本産以外ではドリアン、マンゴー、洋梨をはじめありとあらゆるものが売られていた。

香港ではいわゆる競りはなく、それぞれが個人輸入という形になっていて、それぞれの店が日本産のものを扱っていた。



(福岡県産のいちごが目立つ)



### 《今後の課題》

需要があり、特に熊本産のいちごやさつまいもなどに力を入れなければならない。輸送のコストや輸送時間などでの廃棄の問題もあったので、工夫しなければならない。

## 2.油麻地市街



### 《目的》

香港各エリアに設置されている一般消費者向けの公設市場である市街の様子を見て、香港での食の傾向を調べる。

### 《概要》

野菜はこの季節、菜の花がたくさん並べられていた。中国から来ているらしい。

果物はこの時期、ドリアンが旬ということで積み上げられていた。その他ドラゴンフルーツのような南国果物がほとんど。

魚は海の魚と淡水の魚の店が別々で、新鮮そのもの。

欲しい部分、ほしい切り身などのリクエスト

に答え手際よくさばいて売られていた。

肉は豚と鶏が中心でその場で捌いて部位ごとに並べながら売られていた。

冷凍された鶏の足などもよく売れているようだった。

日本のスーパーのように衛生安全に最善をつくしては無いようだし、中国産のものは農薬もたくさん使われているとのことだった。

露天の店も多く服や花、果物、野菜、肉、加工された肉、それを使った食べ物屋など、なんでも揃う市場。買い物客もごった返していた。

香港では家で料理をする習慣があまり無いのだそうだが、たまには作るようで買い物客も多かった。



(魚市場は日本と変わらない)



(豚肉はお客の要望に併せ、さばいて店頭うり)

(文責 岩田)

### 3.熊本県香港事務所

#### 《目的》

県政の重点戦略「アジアとつながる」の最前線基地となる香港事務所を訪問し、その取組み状況を聞く。

香港では日本産の農林水産物等の輸入が伸びているが、その背景を調べて県産品の輸出振興に役立たせる。

中国等アジア諸国のゲートウェイとしての重要な基地である香港に於いて熊本事務所が行っている県内事業者へのサポートや市場調査などの取組み状況を聞く。



(香港事務所入り口)

#### 《状況》

香港は人口 730 万人の国際都市であるが、食料品の輸入は年間におよそ 3 兆円にも達する輸入大国である。中国本土への転送がその多くを占めていると思われるが、香港での動向は将来を計る上で貴重なアドバイスとなる。

本県の農林水産物の輸入実績はアジアの経済発展が大きく影響したものと思われるが、平成 27 年には過去最高を記録した。本県の農林水産物輸入 2.3 億円の内 6 割を占める香港では、牛肉、いちご、柑橘などが主である。水産物はブリなど日本料理店向けが中心。

輸出拡大に向けた動きとして小売店や飲食店での県産品プロモーションの開催や JTB やジェトロ主催の商談会に参加して宣伝を行っている。また、くまモンの人気絶大で集客増に貢献していることに驚く。

#### 《県政への対応と課題》

地方の基幹産業である農林水産業や中小企業の振興は地方創生に欠かせない課題である。経済成長著しいアジアへの輸出増大は県の経済浮揚にとって不可欠なものであるが、双方にとって利益となるような貿易関係は、きめ細かな調査と宣伝が必要だ。また、事務所の機能を強化するのほひとつの方法だが、県内での企業や農家への情報発信ももっと必要だと思う。

課題としては、素材としての農林水産物の輸出をどうしたら増やせるか？量を増やすことでコスト低下を図り、競争力を高めて生産を安定させることが重要ではないか。そして、生産の安定こそが地方の活力に繋がるのではと考える。

(文責 磯田)

## 4. 日本政府観光局(JNTO)

対応者 山田 洋 所長 清水 安正

### 《目的》

ハブ空港を有しており、世界有数の観光地である香港。この香港と熊本県が直行便で結ばれた。この直行便の活用により、熊本への観光客流入が大いに期待できるが、熊本県の認知度はどうなのか、PR 方法は何なのか意見交換を行った。

### 《説明概要》

香港人の主要渡航先は、日本と台湾がほぼ同数で年間 150 万人を超えている。特に日本は 2014～2015 年にかけて 60 万人も増加している。

その行先は東京、大阪、北海道、沖縄で、熊本県は 1.9%のシェアに過ぎない。

ただ、香港人はリピーター率が高く(2 回以上が 8 割を占める)何度も日本を訪れる傾向があるので、これからは行ったことのない熊本や体験型観光に大変興味を持っている。

近年の宿泊者の推移を見ても、北海道、関東から近畿、九州への宿泊者数が伸びている。しかし、中国地方にも路線が開通したので、九州ものんびりしていると、そちらのほうに客足を奪われるのではないか。

熊本は、現在くまモンの圧倒的人気があり、追っかけ隊もできている。この認知度をしっかり活かす必要があり体験型の観光開発が必要ではないか。



(JNTO での説明風景)

### 《今後の課題》

香港では、熊本は「くまモン」のおかげで大変認知度が高く、現在は旅行先の優位性が高い。今後は他県にはない体験型の観光企画の充実が必要であることが分かった。

(文責 西)

## 5.イオン香港店視察

### 《目的》

日本産食料品の販売状況を視察。イオンの店長さんからパワーポイントによる丁寧な説明を受ける。その後、食料品フロアにて日本産食品の陳列状況を視察、香港での食料品販売の状況を確認し、今後の県産品の販売戦略を考える為に視察。

### 《状況》

物価も所得もあまり日本と変わらない水準だが、食料品の価格は高いのではと感じた。加工食品や酒類等日本の物が多く並べてある。日本産の農産物は人気があり、注目の八代産の晩白柚は3000個が完売したと言う。イチゴも要求度が高く5年間で4倍増、米やミカンも大きく伸びている。

陳列されている棚を見て驚いたのはインスタントラーメンの量の多さだ。しかも日本の企業が生産しているひとつの銘柄のみが7~8メートル巾のコーナーを独り占めしている。消費者のニーズを捉えるところなるのかと、とても印象的だった。



(日本の米が各種売られている)



(『出前一丁』ラーメンの棚、30種類あり)

### 《県政への対応と課題》

六次化される中で売れる物と、素材そのもので販売される物との両面から見直す必要があるのではないかと考える。六次化される食品は県内中小企業の対応が期待されるが、米やイチゴ、みかん類など素材そのものの品質や味を高める農家の努力が必要だと考える。



(奥嶋店長から説明を受ける)



(品揃えは日本のスーパーと変わらない)

(文責 磯田)

## (シンガポールの部)

### 1. 岡田珈琲店 (都市開発概況)

岡田珈琲店 熊本の老舗珈琲店  
対応者 岡田 幸一

#### 《説明概況》

熊本県から、最初は香港に出店した。しかし、香港では、家賃の高騰がひどく、シンガポール出店を決意。シンガポール出店までに、往復費用や市場調査のために私費を 5000 万円程度投じた。

現在のテナントは、オフィスビル街に借り受けているが、観光地ではなく、地元を受け入れられるような店づくりでないと難しいと考えている。

(観光地では、店の移り変わりが激しいとのこと。)

今後、熊本県から企業進出をしていくと思うが、仲介する弁護士、税理士、行政書士等には十分注意をしないと失敗する危険性が高い。地元で足を運んで、情報を自ら取らなければいけない。

行政も企業進出等に力を入れているが、イベントだけでは、この地域にインパクトを与えることは困難。補助金等を当てにせず、3000 万円ぐらいは投資する覚悟がなければ、シンガポールの進出は厳しいことを伝えたい。



(岡田社長さんからの説明)



(シンガポール岡田珈琲前で)

(文責 西)



## 2. 熊本アジア事務所(クレアシンガポール)

対応者 一般財団法人自治体国際化協会 橋本憲次郎所長  
熊本県アジア事務所熊本県駐在員 岡田 理花



(クレア 橋本所長とのブリーフィング)

《視察目的》 本県が設置しているアジア事務所の取組みとクレアの活動について、ブリーフィングを行う

### 《概要》

本県が設置しているアジア事務所は、一般財団法人自治体国際化協会(クレア)内にある。

クレアシンガポールの活動内容は

- 1 アセアン・インドにおける日本の地方自治体の活動支援
- 2 日本とアセアン・インドとの地方自治体レベルの交流の促進
- 3 アセアン・インドとの国際交流・国際協力
- 4 アセアン・インドの地方行政制度、各種政策の調査・情報発信

《事務所体制》 各県・市が共同で事務所を設置している。

所長 総務省

次長 京都府 調査役 兵庫県

所長補佐 札幌市、小山市、群馬県、埼玉県、東京都、大田区、江東区、東海市、  
島根県、北九州市、長崎県、長崎市、宮崎県、宮崎市、鹿児島県

駐在員 山形県、長野県、熊本県

北海道、沖縄県は単独で事務所を設置している。

《活動内容及びこれからの活動について》

- ・クレアは自治体の海外における活動を支援しているが、シンガポールには自治体の概念がないので、オール九州で物産会等の事業を展開することが必要だ。
- ・食品展示会の支援も行っているが、タイでは保健局の免許がある等の要件が必要な場合もあり、各国の事情対応を支援している。
- ・シンガポールの購買力はけた違いである。一部の金持ちに集中しており、「おもてなし」を特別扱いにするのか、一般化向けにするのかは検討をしたほうがいい。
- ・自治体レベルの交流も進めており、北九州の環境対策事業や公害防止事業のようなものは、これからの新興国のアジアには必要。
- ・TPPについては、ルール作りが問題であり、日本の優位性はないと考える。
- ・シンガポールは親日性が高いので、これからの連携は重要。



クレア事務所があるビルのロビーで（国際色豊かで南国の雰囲気溢れている。）



（マーライオン像横 多くの観光局で賑わう）

### 3.日本貿易振興機構（ジェトロ）シンガポール

対応者 長谷部雅也所長 中川 崇次長

#### 【シンガポール共和国の概要】

- 面積 719.1 平方 k m<sup>2</sup>  
(東京 23 区よりやや大きめ)
- 人口 554 万人 (国民 337 万人、  
永住者 53 万人、在留外国人 164 万人)
- 民族：中華系 74%、マレー系 13%、  
インド系 9%、その他
- 言語：英語、中国語、マレー語、タミル語
- 宗教：仏教、イスラム教、ヒンドゥー語、  
キリスト教など
- 一人当たり GDP: 56,287 米ドル(2014 年)
- 議会：1 院制 (99 名) 非選挙区議員 3 名・  
指名議員 9 名
- 主要政党：人民行動党 (PAP)
- 大統領：トニー・タン (2011 年就任、任期 6 年)
- 首相：リー・シェンロン
- 在留邦人：36,963 人 (35,982 人) 2015 年 10 月現在、カッコ内は前年
- 日系企業：850 社 2016 年 2 月 日本商工会議所会員数
- 略史 1959 年 英国より自治権  
1963 年 マレーシア連邦として独立  
1965 年 マレーシアから分離独立



(JETRO 入口)

#### 1、視察目的

マレーシア共和国は、昨年独立 50 周年を迎えた。現在シンガポールは、世界有数の金融・流通 (空港・港湾) のハブ機能を併せ持つ都市国家としてその確固たる地位を築くに至っている。

グローバル化が進展する中、本県は「アジアとつながる」を県政の大きな柱の一つに掲げ、その一環として本県は、クレーシンガポール内に熊本アジア事務所を開設 (2013 年 4 月)。県民に代わりシンガポールの実情と熊本アジア事務所がどのように現在どのような機能を果たし、今後どのような役割が期待されるのかを探った。

## 2、説明概要

シンガポール都市国家として金融・流通を中心に発展を続けている。シンガポールは、アセアン及びインドのほぼ中心に位置し、ジェトロシンガポールでは、アセアン10ヶ国（シンガポール、インドネシア、ラオス、マレーシア、ブルネイ、カンボジア、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナム）＋インドに関する情報を収集。そして日系企業が域内で行う輸出入および投資に関するあらゆる事項を手伝う立場にある。

本県からシンガポールへの輸出額は、平成26年度20,996千円（内訳：米13,349千円、かんしょ4,592千円、トマト61千円、いちご387千円、その他2,607千円）で対前年比114%となっている。

○米は、現地精米用の玄米の輸出などにより増加（183%）

○2016年シンガポールでの日本食飲店は1105店

○熊本産の農産品（特に日本米）を売り込む場合、日本向け飲食店を中心に売り込む方法がベストであるが、日本食飲店は飽和状態 ⇒ 輸出上限に限りがある

○シンガポールまでコンテナで約2週間掛かるので、それに適した農産品の選定が必要（香港までは約4日）



(JETRO 中川次長とブリーフィング)

### 3、今後の課題

遠く離れたシンガポールに本県の事務所を構えることに当初懐疑的でした。しかし、実際シンガポールに出向いてみてその認識が完全に変わったと言えます

アセアン+インドの人口規模は約1.8億人。その中心に位置するシンガポールには、世界各国から人・カネ・モノ・そして情報が集積します。そしてビジネスチャンスは、いくらでもあることを実感しました。

例えば、本県は県産米の売り込みを仕掛けていますが、その潜在需要は計り知れないことを実感しました。20年前、生の魚を食する習慣はアジア各国にはありませんでした。ですから生の食材を使用する日本の寿司が、世界にこれほど広がるとは誰も予想しえないことでした。しかし現在、寿司はシンガポールでもふつうに食される日本食となっています。潜在需要を掘り起こし、本県の素晴らしい食材を提供するということ。

シンガポールまではコンテナで約2週間ほど掛かります。ですからその輸送期間に耐えられる県産品を選定し輸出を促進していく必要があります。ちなみに畜産関係はほぼ手付かずの状態と言えます。潜在需要はかなり見込めるはずですが、県の役割は、民間企業のサポートにあります。

九州における熊本、日本における熊本、アジアの中の熊本、そして世界の中の熊本。そういう観点から県の立ち位置を考えていくことが重要だと再認識しました。

(文責 濱田)



シンガポールのベイサイド

## 4.クボタ精米工場

対応者 住中 卓史 所長

### 《目的》

熊本県産米の輸入販売を行っているクボタ精米工場を視察し、国際農業に対応した熊本県産米輸出の課題を探る。

### 《説明概要》

クボタは平成 11 年から日本米輸出の事業を始める。

香港営業所は 2013 年から、シンガポールでは 2014 年 1 月から始めた。シンガポール営業は、熊本フェアとタイアップしたので、蒲島知事にも来所してもらった経緯があり親近感を持っている。

日本産米輸出は、香港、シンガポールを中心に行っており、2014 年 4516t から 2015 年は 7600t まで伸びている。その中で、クボタ・グループの輸出量も堅調に推移している。

販売先は、外食産業が多いが、その場合は小売り単価が、ベトナムや中国米との価格競争になっている。高品質な日本産米は個人向けに売れているが、量的にはさばけない現状。このことからすれば、日本米のブランド力はあるが、国内にあるような品種差や産地間差はなくなり日本産米として統一されていくのではないか。

熊本の米は、「あきまさり」を扱っている。(実際現地には、県北産ヒノヒカリ等の風袋も見えた) くまモンパッケージで、個人向けに販売しているが大変好評とのこと。



くまモンパッケージの米



(住中氏とのブリーフィング)

## 《今後の課題》

- ・日本産米の輸出は大いに期待できるものの、外食産業向けと個人販売向けの格差を設けた戦略が必要。
- ・「あきまさり」は多収品種であるが、今後の国際競争価格帯を考えると、さらに多収で低コスト生産される品種が求められるのではないか。
- ・香港・シンガポールではチャーハンなど味付けをする食文化であり、米だけを食べる食文化はなく、寿司やおにぎりなど、これから日本食ブームが広がることによって、食味の良いコメが求められる可能性が大いにあることが分かった。
- ・シンガポールの輸入ライセンスに、輸入量の半分を1年間政府に備蓄をしなければならない制約がある。(シンガポール政府の備蓄安定政策)この点は、シンガポール輸出における大きな課題になると考えられる。



## 倉庫の風景



(倉庫内の日本各地から集められた米、熊本あきまさり)

(文責 西)

## 香港の部

### 6.香港航空局

#### 《目的》

12月14日から就航のくまもと香港便についての現地の取り組みや様子を聞き、展望をもち、具体的な取り組みを知る。

#### 《説明概要》

12月14日からの就航はとてうれしい出来事だととても喜んでおられた。これまで31便で8000人がくまもとへ飛んだ。

74%の搭乗率。3月は80%となっている。団体旅行が58% プライベートの旅行は42%、喜んで利用している。日本からの客ももっとほしい。もっと宣伝をして増やしたい。くまもんは香港では大人気。どんどんでてほしいとのこと。香港はまだ紙媒体の情報のシェアが大きいので、情報誌に熊本の情報を載せてあることで広がっている。フライト数や客数は宣伝で広がる。

また、マーケティングは日本が上手だからぜひ話し合いをしてうまくいくようにしたいとの要望もあった。

今のところ帰りにくまもと便を使うのは50% 熊本入りし、帰りは鹿児島か宮崎からということになる。南九州観光の充実が必要に成ってくる。

これからは口コミ SNS をうまく使っていきたいという戦略。

#### 《今後の課題》

南九州、または九州を一つとして考え、観光ルートを作ることが大事ではないだろうか。情宣の方法の工夫でも、まだまだ伸びていくと思う。

(文責 西)



(香港航空局 主任)





## 7. 峰寿司 2016年4月14日訪問

対応者 任惠民ディレクター



### 《目的》

地場企業の中には海外進出を希望する会社も多く、県に対してはそれを後押しする政策を望む声も聞かれる。そこで本県の地場企業の中でいち早く海外進出を実行し、実績と成功を収めた数少ない企業の一つである峰寿司さんを訪問し意見交換することとした。

### 《説明概要》

峰寿司は1971年熊本県熊本市で創業。現在熊本に4店舗（従業員数約100名）、香港に9店舗（従業員数約200名）、ニューヨークに1店舗を展開する企業に成長している。香港進出は2004年。ニューヨークへは今年5月に進出を果たしている。

- ・香港の店舗家賃は世界一高いとも言われており、家賃に見合う客入りが見込める場所でないとなら成り立たない
- ・新鮮なネタは、福岡から空輸してきた
- ・従業員教育（握りの指導など）は、基本的に香港で行っている
- ・寿司の内容は、日本に負けないレベル
- ・香港人が好むオリジナルの寿司も次々に開発

峰寿司の宮崎社長によれば、第1号店を出店するに際しては、大変なご苦労があったとのこと。しかし現在では、会社の売上げの約3/4が香港での売上げが占めており、海外展開がなければ、会社の成長は見込めなかったであろうとのことでした。



(香港峰寿司店内様子)

#### 《今後の課題》

熊本の地場企業が、香港で事業展開することは本当に難しいことだと考えられています。言葉の問題や商習慣の違いや様々な壁が存在します。しかし少子高齢化で日本国内のマーケットが縮小を続ける中、更なる事業の飛躍を目指すならば、自ら世界に打って出るしか方法がないのかもしれない。

峰寿司さんの成功例を普遍化し一般企業にも通じるビジネスモデルにすることは、難しいことかもしれませんが、学ぶべき点は多いと考えています。

県および香港事務所は、地場企業の成功例をどんどん発信し、次なる挑戦者が挑戦しやすいビジネス環境を提示していくことが求められていると考えます。

(文責 濱田)

## 結び

今回の香港・シンガポールの視察で、本県が目指す「アジアとつながる」戦略は、大変有効であることが分かりました。

市場の大きさは魅力的であり、熊本県の製品等の売り込み余地は大きくあることが分かりました。

しかし、国内と同様の手法では困難であり、ターゲットをしっかりと捉えて、進めなければ、成果を出すことも難しいのでは考えます。

最後に、熊本県では4月14日に震度7以上の地震があり、大きな被害が出ました。

また、帰国した15日の深夜16日未明に、震度7以上の本震が熊本を襲い、未曾有の大災害となりました。

被害にあわれ、お亡くなりになった方のご冥福と、今なお被災に苦しんでいる方にお見舞いを申し上げますとともに、その対策に日夜邁進し、事後報告の提出が遅れましたことをお詫び申し上げます。

民進・県民クラブ一同